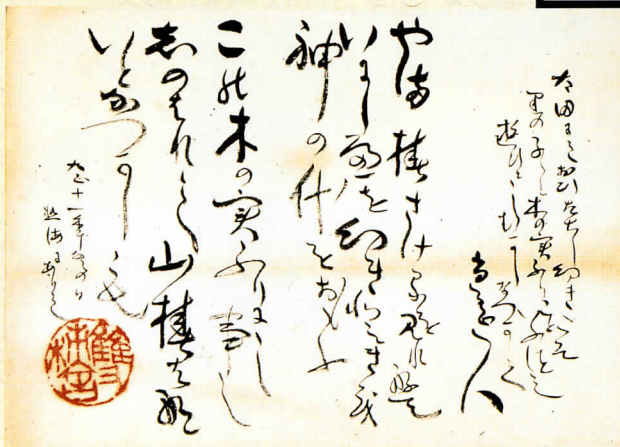


部	山	逍
屋	つ	遙

ば
き
の

Syoyou Yamatsubaki no Heya



祐泉寺 所蔵

やま椿さけるを見れば
いにしへを幼きときを
神の代をおもふ

この木の実ふりにし事し
しのばれて山椿はな
いとなつかしも



この二首の歌は、大正8年に太田へ訪れた折、
子どもの頃を思い出し詠んだもので、
太田の祐泉寺の本堂にかけてあります。



昭和10年 最晩年の逍遙



昭和2年12月 早稲田大学最終講義の際



明治7年 坪内逍遙、平右衛門、ミチ



大正8年 太田盛空藏堂前の坪内逍遙と妻セン



早稲田大学 坪内博士記念 演劇博物館



逍遙愛用の遺品



明治18年5月 『当世書生気質』執筆当時の逍遙

坪内 逍遙

Syoyou Tsubouchi

◆逍遙のふるさと美濃加茂

太田小学校ができる前、この場所は尾張藩の太田代官所でした。坪内逍遙（本名：勇藏のちに雄蔵）の父は、この代官所の役人だったので。逍遙は安政6年（1859）5月22日、厳しくて曲がったことのきらいな父平右衛門と、本好きなやさしい母ミチの間に十番目の子どもとして生まれました。何枚もの紙に絵をかいていたので、家族からは「未生まれの紙食い虫」と呼ばれていました。

美濃加茂にいたころの逍遙は、天神社の境内にあったつばきの実で「木の実ふり」という遊びに夢中になって遊んでいました。また、天狗党の一隊が、中山道太田宿を通過したとき、逍遙は宿場の店先からこわごわとその一行を見ていたそうです。

◆偉人逍遙

明治2年（1869）、逍遙は家族とともに名古屋へ移り、明治9年（1876）には、開成学校（今の東京大学）へ進学するためにひとりで上京しました。そして、学校を卒業すると、明治18年（1876）に『当世書生気質』や『小説神髓』などの作品を発表しました。逍遙は演劇にも力をそそぎ、文芸協会の設立、演劇博物館の完成、シエークスピア（イギリスの作家）の全作品翻訳などの業績を残しました。また、教育者としても多くの優秀な指導者・学生を育てました。そして、昭和10年（1935）2月28日、惜しまれながら75才でこの世を去りました。



この「逍遙山つばきの部屋」は、
逍遙が好んだ「山つばき」の
花の名にちなんで名づけました。
逍遙の残した業績や
生き方を学ぶことにより、
子どもたちの夢や希望が
育つことを願い開設するものです。

美濃加茂市教育委員会（文化課）
〒505 岐阜県美濃加茂市島町2-5-27
TEL 0574-28-8551 FAX 0574-25-1100

美濃加茂市立太田小学校
〒505 岐阜県美濃加茂市太田本町5-4-39
TEL 0574-25-2604 FAX 0574-25-0129